

学校の周辺を散策することを通して、様々な人たちが自分と関わっていることを学び、親しみを持つことができるようにする学習

わくわく おしごと たんけんたい

すてきなおしごとみつけた — 2年 —

日時 9月30日(木) 6校時
 対象 2年男子17名女子29名計46名
 指導者 千葉幸子 吉田隆
 場所 肴町商店街

<本単元のねらい>

関心・意欲・態度

ねらい

- 学校周辺で働く人たちの様子に関心を持ち探検を通して親しみを持つ。

実態

- 肴町については買い物や学習を通し訪れることで身近に感じている子が多い。
- お店に関心を持っている子はいるが、それ以外の職種に関心を持つ子は少ない。

思考・表現

ねらい

- 自分の視点について五感を使って調べたり観察したりする。
- 探検で見つけたことや気付いて分かったことを絵や文で工夫して表現する。

実態

- 大切なことを調べようという意識は高いが、五感を使うという意識は少ない。
- 見つけたことを絵や文で表現するが、自分の思いを伝えられない子がいる。

<実感をもたせる工夫>

- 実際に何度も足を運び五感を使った調べ活動をすることによって、学校周辺で働く人たちが自分たちの生活とも密接に結びついているという意識を持つようにする。
- インタビュー活動をするによって、働く人の思いや願いに触れるようにする。
- 発見したことを他のグループと交流することによって、自分たちとの共通点や相違点に気付かせ、学習を深めるようにする。

気付き

ねらい

- 学校周辺で働く人たちのよさや自分たちの生活とのかかわりに気付く。
- 活動や発表を通して、友だちや自分のよさに気付く。

実態

- 子どもたちは肴町は商店が多く便利で多くの人たちが集まる場所という意識を持っている。その反面、どんな仕事があるのか、どのように働いているか、どんな気持ちで働いているのか、商店以外の仕事などに目を向ける子は少ない。
- 自分で調べたことを自分の言葉で表現しようとする子が多くなってきている。その反面、友だちの話をしっかり聞いたり、よさに気付いたりすることがまだまだ苦手な面が見られる。

<単元の展開> (時間)

13時間

段階	主たる活動	指導の手立て
したしむ (4) 本時2/4	○ 商店街の不思議なものを探検をしたときのことを思い出し、学習の見通しを立てる。(1)	・ 1学期単元「さかな町たんけん」で五感を使い学習したことを思い出すことで、本単元の学習でも五感を使って調べるように意識付ける。
	○ 学校周辺で働く人について調べる。(1) 本時	
	本時のねらい 商店街では多くの仕事に携わっている人々がいることに気付き、詳しく調べようとする。(気付き)	
	<課題> さかな町にはどんなしごとをしている人があるだろう。 1 これまでの経験をもとにどんな仕事があるか予想を立てる。 <ポイント> どんな仕事 働いている人のようす 2 グループごとに調査をし、見つけた仕事を発表しあう。 3 感想をまとめ、ふり返りをする。	・ 五感を使って気付いたことを記入できるように、カードの記入の仕方を工夫する。 ・ 活動につまづいている児童には目や耳などを使いよく観察するように声がけをし、いろいろな仕事があることに気付くように支援する。 ・ 発見したことを他のグループと交流する。似ているところや違うところを見つけることで一人一人の気付きを全員で共有し、様々な仕事に携わっている人があることに目を向けるようにする。
かかわる (6)	○ 学校周辺で働く人たちについて調べる。(肴町アーケード以外) (1) ○ 見つけた仕事についてまとめる。(1)	・ アーケード街で見つけた仕事と比べることで、他の仕事もあることに気付くようにする。 ・ 学校周辺には様々な仕事があることに気付くために、おしごとマップを作る。
	○ 学校周辺で働く人について、くわしく調べる。	・ 働く人たちの思いを感じ取らせるためにインタビューを取り入れる。 ・ 働く人たちの様子を様々な観点から詳しくカードにまとめるために、五感を意識した視点を提示する。
ひろげる (3)	○ 学校周辺で働く人について調べたことを交流し、まとめる。	・ 学校周辺には様々な仕事をしている人があることを実感するために、仕事の様子や働いている人の気持ちなどを交流したり、お仕事図鑑を作ったりする。